

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
1	男性	市内	50歳代	1	<p>①事業が長期化しているため、人口の減少・高齢化が進んでいる。住環境の整備は一定進んでいるが、虫食い状態の土地となっており、有効活用が図れていない。 未来に向かってまちづくりを考えていくことが必要であり、京都全体のまちづくりへの貢献を視野に入れて検討したことについては、評価する。 また、人権が尊重されるまちづくりは引き続き取り組んでほしい。</p> <p>2 ② まちづくりは、1日ではできないものではない。時間をかけて進めていくべきものであると思う。 崇仁地区だけで完結するのではなく、周辺地域も「創造・交流・賑わいのまち」となるよう進めてほしい。</p> <p>3 ③ 崇仁に行けば、こんなことが体験できる、こんなまちに住んでみたい、などワクワクするような魅力的な施設を誘致してほしい。 たとえば、一乗寺付近にあるラウンジ街道のように人が集まる仕掛けを考えてほしい。</p> <p>4 ④ 何でも行政がおぜん立てしてするまちづくりはありえない。そこに住んでいる人々が、どのように自分たちのまちを生まれ変わらしていきたいかが重要である。 姉小路など住民主体でまちづくりを考えるような取り組みを期待する。</p>
2	-	市内	30歳代	1	<p>■「現代まちづくりの趨勢に学ぶ」とは？ 現代のまちづくりの趨勢が何を指すのかは分かりませんが、まちづくりを「クリエイティブ・シティ」と表現したり、これまでパートナーシップとしてきた協働を、「ガバナビリティ」と表現したり、まちの運営を「エリア・マネジメント」と表現したりと、日本の各学会でもしばしば聞かれるようになった用語を、工学系の教授が散りばめることに何よりも違和感を持ち、崇仁の将来にとって、益することがないように思いました。これらのようなカタカナ語を使わなくても、十分、崇仁にはまちづくりの資源があり、それを生かせる手法が考えだせると思います。これが、素案、議事録など関連資料を読んだ最初の印象です。</p> <p>2 また、地域のシンボルであった崇仁小学校の閉校についても、議事録のなかでは触れられていますが、素案では何も言及がないのは寂しいことです。明倫(市立芸術センター)、龍池(マンガミュージアム)、そして、菊浜(うまち交流館)と様々な転用形態が実施されてきたなかで、みな1階にはカフェがあり、人の出入りがあります。崇仁小学校にしかできない転用とはいえず、ショッピングセンターもいいでしょ、大学もいいでしょ、しかし、136年間の栄光を生かすのなら、何よりもそれにふさわしい施設にすべきです。柳原銀行保存運動から記念資料館と20年以上以上に及び成果をさらに発展させるうえで、京都全体を射程にした人権博物館があってもいいのではないかとします。「現代まちづくりの趨勢」とは何ぞや。</p> <p>3 ■土地区画整理事業の現実性 住宅地区改良事業と土地区画整理事業の合併施行は、どれぐらい現実的なのか。改良事業の終了は、実際に指定された土地を活用できて初めて終了といえます。ですので、土地を集約化し、住宅(改良住宅)にせよ、定期借地権付きにせよ、町家にせよ)を建てるというのは発想として妙案とはいえない平凡なものです。とはいえ、当局の苦勞が大きかった部分でもあって、入居基準によって人口流出、コミュニティ活力の低下という皮肉な結果となったように思います。人口が非常に減っているのだから、現行の改良住宅の建替えが必要になることはあっても、これ以上、住戸を増やす必要があるのでしょうか。改良住宅の入居基準は、1960年の時点から柔軟に運用されてきましたし、神戸や大阪では混住する住宅も多いです。なぜ、京都市だけが属人地にこだわるのか。属人主義であるのが住宅地区改良法の原則であると思います。まず、崇仁を出て行った人たちが住宅に入居できるようにすること、そして、一般公募で崇仁にゆかりのない人も入れる基準にすることが、先決ではないでしょうか。国交省の大臣の選挙区にも多くの改良住宅が建っています。国政に働きかけるチャンスはいまにおいてはあります。</p> <p>4 「ハウジング・ブーム」という言葉が使われる今、留学生の入居も必要ですが、外国人を含めて、居住福祉に困難を抱える人たちに、公営住宅は貴重な社会資源であり、また、子育て世代(シングルマザーを含む)にとっても、住むところは喫緊の課題です。そこに、保育施設が充実し、地域の温かさがあり、交通の便が良い。その三点が揃えば、定住人口の増加可能性は高まると思います。住宅展示場を作るよりも、各不動産会社、福祉事務所、大学などの教育機関などと連携し、確実に高まる住居ニーズの受け皿を作る必要があると思います。もちろん、戸建てもいいでしょ。「平成の京町家」など表面的な提案よりも、ニーズと受け皿をマッチングさせる仕掛けとまちづくりの動きを連動させるために必要なことを考えて欲しいです。まちづくりとは「夢のある」ものであってよいですが、「夢がある」だけでは困るのです。</p> <p>5 屋間人口に関しては、大学のサテライトや住宅展示場、フリマなどの案は、なんとも貧困な発想で、例え一瞬だけ人は増えても、表面的なものになると思います。大学のサテライト等を入れるにしても、破綻した京都衛生専門学校が東九条南山王町にありましたが、それにより何かしらの活性が生れたという話は聞きません。工夫が必要で、大学なら同志社大学の寒梅館(地下は舞台・劇場・同志社関係者は無料、学外は有料・崇仁でもこのような特別と一般の区別があってもいいと思います)などでは、地域住民や他大学の学生など、多くの人が利用しています。貸し館ならうまち交流館、キャバクラの利用率から学ぶべきであり、三館のネットワークを通じて(京都市の委託事業でもあるので)、うるおい館をも有効活用できると思います。 前二者は稼働率が非常に高いです。カフェもあり。ひとまの立地条件はよくありません。一番の難点です。関係者である三村教授が委員長であるのに、その点について案が出されないのはあまりにお粗末です。コミュニティセンターなどの利活用には、インターネットで空き室状況が調べられること、SOHOも良いですが、様々なNPOや自主的な団体が使えるようにするなら、ロッカーや郵便物も受け取ることができるような仕組みをうまち交流館からもっと学ぶべきです。もちろん、1階にオープンカフェ(カフェという言葉はあまり好きではないので、「きつちや店」というノリ)を作ることで、学生や地域の人たちが、またグルメ通がよってくるような工夫が考えられますので、ぜひ、ご検討して欲しいです。</p> <p>6 ちなみに、銀行建業を活用したセカンドハウス西洞院店を利用している下京区役所職員は多いと思いますが、無線ランも繁がる、学生(龍大生)も使う、観光客(外国人を含む)も使う、さらに、ギャラリーや貸しスペースも存在する。そんな目玉になるお店を誘致することで、「動線」を強調するのではなく、人が「溜まる」構造をつくる効果を期待できるのではないのでしょうか。「イノダ珈琲」や「前田珈琲」など木造建築の喫茶店・カフェもありますし、銭湯を改造した「さらさ西陣」などもあります。それらの支店が市内に散らばっていますので、誘致するのは実に京都らしいです。京町家もいのですが、スタバやコンビニなどを誘致する大学などは節操がありませんので、ぜひ京都らしい街角の喫茶店を作ってみてください。歴史を感じさせる「フランソワ」(四條木屋町下ル)や「チロル」(神泉苑角)などから学ぶこともあるでしょう。もちろん、地元の方々が経営されるのがベストです。例えば「ドンツキ喫茶」というのを作ってみるのはどうでしょうか(インターネットカフェや漫画喫茶ではなく)。もしくは塩小路の南北付近の高瀬川沿いに「喫茶高瀬川」などはいかがでしょう。</p> <p>7 また、塩小路北東の緑地化も、なぜベンチを置かないのか、須原通にあるような、ちよとしたベンチがあることで、一息つける。お年寄りも観光客も。目の前に警察があるので、治安上、問題になりにくい場所です。そこに、柳原銀行記念資料館とうるおい館、学習センター、屋内体育施設を案内する大きな掲示板の設置ができると思います。八条須原通の北西で実施している工夫を、その場所でもそやるべきです。また、駐車場として暫定活用できる土地があるのなら、修学旅行者や各地から研修のためにやってくる人たちのための大型バスが止められる専用駐車場を設置することで、喫茶店やカフェレストラン(というよりは食堂のほうがつくります)との有機的な連携を可能にし、人を呼び込むサイクルが作れるのではないのでしょうか。「修学」する場所としては、教科書に載っているようなありきたりな寺社仏閣よりも崇仁の方がより優れているし、教員や生徒の心に残るような思い出ができれば、京都市が観光都市として目指すリピーター(大学生として戻ってくることもあり得るでしょう)も確保できるのではないのでしょうか。そんな交流を、既に柳原銀行の研修実績などから、模索できるのではないのでしょうか。</p> <p>8 崇仁以上に限界集落として厳しい過疎化に悩まされている中山間地域の活性化については、地域産業論の関博博氏などの実績(『中山間地域の「自立」と農工商連携—島根県中国山地の現状と課題』)が参考になるでしょう。市内の商店街でもやっていますが、工部大学の教員が来ているのなら、ゼミ単位で、この地域のまちづくりの一部分を担わせるような工夫があってもいいはず。特に、龍谷大学などは身近ですから。ちなみに、伏見の大手筋商店街では龍谷大学のゼミが店したりしています。大学教員の関わり方はこのようなトータルコーディネーターになれるということに意味があります。その中から、地域に定住していく人が生まれていく。地域の人たちが顔が見える関係になり、信頼関係が生まれる。実践している地域はうんとあります。</p>

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
				9	<p>■地場産業をどうするのか</p> <p>崇仁地区を、単なる生活空間のみにするのでしょうか。生活空間であると同時に職場でもある。職分分離という当たり前となった都市化の現象を、改めて、反省してみる必要があるのではないのでしょうか。1960年代に既に議論されてきましたが、オフィス街に出て、現在の過重労働のなかで働き、帰って来て寝るだけ。定期借地権の分譲マンションを作っても、このような住民だけではまちは活性化しません。もちろん、子どもや親を通じて、繋がりも可能です。</p> <p>かつては、皮革産業が盛んであったわけですが、柳原町時代には田畑も存在しましたし、馬小屋、豚小屋も存在しました。京野菜をブランド化し、最近では、地下鉄の駅の改札口前でも販売しています。空地を農地化し、京野菜を栽培し、それを直売する。それを利用することで「市」を行う。単なる祭りやフリマでは、ほとんどの地域でやっていますので、崇仁ならではの工夫が必要です。「八条坊門楽市楽座」はまさにその第一歩となる貴重な実験です。それをさらに発展させるためには、そのような発想が必要です。生活商業施設と地場産業（仕事づくり）を掛け合わせた発想が必要です。この点については、大阪市立大学創造都市研究科の矢作弘氏などが全国の事例に詳しいです。</p>
				10	<p>「創造都市」という言葉には、グローバル化による世界的単一化、均一化に抗する内発的な発展の歴史が含意されており、イタリアの中部（「サード・イタリア」）での事例などは、伝統産業の復活にこそ魅力があります。そのように位置づけてみることで、これまでのまちづくりと連結するという仕掛けが可能になるのではないのでしょうか。近代を反省する。その点が大事です。</p>
				11	<p>■簡易宿泊所と公衆浴場の再評価</p> <p>定住化については、後述しますが、内浜が形成され、七条ステーションが形成されることで賑わいができたなかで、何よりも崇仁地区は流動性の高い地域でした。解放令前後で大きく人口の入れ替わりがあったことは既に知られた史実です。その際に、釜ヶ崎や山谷とまではいかないまでも、簡易宿泊所・旅館が多く存在したのがこの地域の特性ですが、現在、営業しているところはわずかです。戦前の社会事業には公設の簡易宿泊所の設置も存在したと思いますが、そのような点から考えて、五条楽園や材木町周辺、東九条付近にある「ゲストハウス」（一泊2,500円程度、東九条には少なくとも三施設以上あります）のような機能を持った、簡易宿泊施設を、京都市か地元のNPOが管理して、運営できないでしょうか。そうすることで、ますます、人が入ってこれる空間になると思います。つまり、観光客は崇仁から市内をまわる。「動線」ではなく「滞留」させる発想です。</p>
				12	<p>また、話は横道にそれますが、浴場の値段を適正化するという話も、同和地区に蓄積された社会資本の活用という観点からすれば真逆を向いているように思います。全般的な貧困化のなかで、生活保護の受給率が高まり、生保が受給しやすい大抵市などに人口が流入しているという話さもありです。そのようななかで、公衆浴場はスーパー銭湯のようなかたちで再び見直される対象になっています。どちらかといえば休日の「レクリエーション」「リラクゼーション」という流れの中に銭湯復活の兆しはあったわけですが、崇仁ならではの工夫を凝らすのであれば、運営形態はマルチ機能を持った銭湯であると同時に、安価な料金で利用できる、ノーマライゼーションが貫徹されているなど、単なる商業主義に走らない社会性を担保できる浴場が必要なのではないでしょうか。湯屋は公衆衛生史のなかでも極めて重要な社会事業でした。にもかかわらず、湯屋記念館や銭湯記念館はなく、単に温泉旅館ばかりが流行るご時勢に一石を投じることができればよいのではないかと考えます。</p>
				13	<p>その他、史蹟めぐりとして崇仁地区内にこそ、三十三間堂や本願寺にはない歴史を感じさせるポイントを設置し、米騒動発祥の地、高瀬舟の乗せられる行刑の場跡、オーロロマンス事件発祥の地等、さまざまな記念碑も建設できると思います。前述した「人権博物館」には戦前から続く、実にユニークで一級の社会事業を展開してきた京都市の歴史を、人権と共生の観点から発信するという目的も込めています。</p> <p>「京都市歴史博物館建設構想」に決定的に欠けているのは人権文化の推進であり、歴史とまちづくりを連携させる経験と実績だと思われまます。「世界人権問題研究センター」では、調査・研究機能のみで、地域に深く入り込み、世界に発信する力は弱い。それは、地域住民が主体となっておらず、学者や行政が中心となって運営されているからである。この点を、よくよく考えなければならぬ。</p>
				14	<p>■南部エリアとの協働</p> <p>第1ステージのまちづくりが、住宅地区改良事業を基本としたまちづくりとなると、実に半世紀も、同事業に規定されてきたことになり、第2ステージとは一体何年ぐらいのスパンを考えているのか不安になってきます。それはさておき、「人権が尊重される共生のまち」(9頁)と書かれているにもかかわらず、児童館・保育所などを通じて、日常的な交流のある東九条地域との「エリアゾーニング」について一切触れられていないのが、解せません。</p> <p>確かに、北部を中心とした事業の完遂というのが大目標になっているからというのは分かりますが、地区にとどまらない交流を促進するなら、「楽市楽座」の企画はもちろん、社団法人カリタス会に委託されているデイサービス(東九条、崇仁、松原、島原)が持つネットワークをどう崇仁の活力に呼び込むのか、「福祉一体型居住環境の実現」(6頁)というからにはここにも力点が必要であり、言及がないのは残念なことです。東西南北。すべてにまちづくりの可能性が広がっているのが崇仁の実にアドバンテージになるところだと思います。</p>
				15	<p>■推進体制の問題</p> <p>「京都市は推進体制を確立し、関係部署が連携」と8頁に書かれていますが、どのように確立し、どのように連携するのか。旧社会課から民生局時代、同和係から同和对策室設置時代など、様々な総括をしなければならない点が多く、学者が入っているにもかかわらず、行政システムについて、提言できていないのは物足りません。総点検委員会でも、総合行政という評価止まりで、それは、ただ単に会議の場に各課の課長・係長が顔を並べればよいというものではないはずで、かといって、互いの部署の顔色を見ずにはいられないという行政内部の事情を考えた場合(また、部長や室長、局長等の顔色も)、行政システムの効率的な在り方を提言する役目は、誰にあるかがはっきりします。</p> <p>むやみな公務員の削減は必要ありません。現場で汗水たらして頑張っている京都市職員が報われ、それが一つのケースとして普及するような仕掛けまで提言するのが、委員会、特に学識経験者の役目だと思います。その点も、本草案では不十分だと云わざるを得ません。地元の自治会長や隣接する自治連合会会長が積極的な発言と行動をされているのに、他の委員からそれを生かす提案がないように思いました。これは全般的な印象ですが、もっと頑張ってください。</p>
3	-	-	-	1	<p>別にこれといった意見もありませんが環境を大切に考えてください。</p>
4	女性	市外	50歳代	1	<p>今日は参加させてもらって京都駅近くこのような実態がある事を知りました。今日見た風景がなくなるというのは地元の人には色々な思いがあると思います。他府県の私にとっては京都というイメージがあります。近代的な合理的な建物でなく誰かがおっしゃっていた京の特性を生かした独自の町づくりができればいいなと思いました。又、その中に地元のお店も入り自然な京を感じられる町になってくれればと思います。本日は有難うございました。</p>
5	男性	市外	70歳代	1	<p>京都そのものが当時の中国(唐?)の都をまねてつくったものだから、その発想を生かして、先ず図面の中に思い切ったアイデアを生かした都市をつくりそれを部分的に建設していき最終的に全体像が作られるというくらいの構想で望んではいかがでしょう。</p>
6	男性	市外	70歳代	1	<p>京都の崇仁地区を見たのははじめてですが差別はいけなく、なくした方がいいと思いました。差別されている人はかわいそうだと思います。同和地区をなくして新しく作り直すということは必要だと思います。</p>
7	女性	市外	60歳代	1	<p>京都にこういう地区があることは正直知りませんでした。こんな一等地なので有効に活用しないもったいないですね。やはり建物は高層になるでしょう。マンション、ホテル、時代が変わると何でも変わっていくのは仕方のないこと。早く柵で囲まれた更地を整然とした町(街)に生まれ変わるのを楽しみにしています。</p>
8	女性	市外	60歳代	1	<p>六条村という地域は都会の中にありながらあまりにも更地が多いのにびっくりしました。今後の京都の町の変わり方に興味を持って京の町散策に来たいと思います。</p>
9	男性	市外	60歳代	1	<p>崇仁地区を、住みやすい人権尊重の町づくりをしようとしていた、全解連・全解放同盟・地元の人達の、間隙をつき崇仁協議会が設立されたとお聞きしましたが、この様なすきをみせることは、前記3者が解放事業に関して、お互いの意見が一致しなかったのではないかと推測いたします。</p> <p>2 これからは、高齢者社会の時代です。たしかに検討委員会報告書では、いろいろなビジョンが掲げられています。崇仁地区は京都駅に近く、全国から来られるような病院・福祉施設が望まれるのではないかと考えられます。</p>
10	女性	市外	60歳代	1	<p>これから大きく変貌する京都駅前の景観を目の前にして歴史的な瞬間の中にいると感じました。先人達の長い歴史の中でのご苦労が新しい姿に変わっても伝えられる様なものになると良いなと思いました。例えば京都らしい建物、空間。又、老人福祉施設(病院付)</p>

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
11	女性	市外	70歳代	1	崇仁地区のどこを通っても金網で囲っている所が大変多く感じられましたが、3~4年後には新しい街並みが出来ているとの事、是非この京都駅の近くのこの地区に京都らしい情緒あふれる立派な町が出来ていることを楽しみにもう一度訪ねてみたいと思います。
12	女性	市外	50歳代	1	今日はありがとうございました。京都駅の側にこんな歴史をもった場所があるということ、自分の足で歩かせてもらうれしかったです。 話の中で人口の減少ということ、高齢化ということがありましたが、どこでもその話は聞かれます。私はやはりいろいろな世代の人が暮らすまちづくり・・・それがどういう形になるかは別にして、そのことを思います。
13	女性	市外	60歳代	1	いろいろ勉強させていただいて差別のルーツが少し理解できたように思う。 最後に、罪人を処刑する人体解剖の件などこういう仕事を通じて医学的な分野の進歩に大きな貢献をされていたということについて初めて耳にすることだったので驚きました。 設備の整った施設が多数あり、当時の方々の運動が活発に行われていたことを強く感じた。
14	-	-	-	1	崇仁の人達が今まで培われてきたものがなくなってしまうまちづくりをつくってほしいです。私たち京都以外からこちらへFWで来ましたので京都の伝統・景観が受け継がれ、福祉、教育の充実したものをつくって欲しい。(病院、学校等)
15	女性	市外	60歳代	1	本日は有難うございました。人権啓発リーダー研修講座、「京都柳原銀行保全運動をとおしてまちづくりを学ぶ」に参加させていただいて思うこと。 鴨川、高瀬川等の優れた景観がそこなわれない様な京都らしいゆったりと静かな環境であって欲しいと思います。
16	-	-	-	1	柳原銀行資料館などの施設維持するのは大変ですがやはり残して欲しい建物です。崇仁コミュニティセンターなど立派な施設はもっと活用されないとつまらないと思いました。
17	男性	市外	60歳代	1	町づくりと言っても再開発は地価が上がり(立地位置等により)一般の住めるようにするには高層建築にしないと一戸当たり単価は下がらないと思うし、そうすれば京都と言う歴史の町とは遠ざかると思う。大阪の駅前再開発のように京都市としての歴史、市の姿勢を示すもの等の府市一体の場所と象徴の処として考えざるを得ないと思う。 しかし、地域住民としてはさびしい。府市一体となって地価を下げる案が出てこない限り一般住民の京都すみかを示す形のすまいとしては難しい。地価高値となると外人・高額所得者等の京都住民以外の人が占める割合が高くなるだろう。
18	-	-	-	1	京都駅に近く、また東山を背にと交通に便利で環境に恵まれた立地条件に優れた場所ですから、その特性を生かした利用をされたいと思います。 遠くから多数の人が集まる商業地域と、また京都には大学が多いので大学の誘致。 長い歴史持つ京都で一部に京都らしい町並みを再現してもいいかもしれません。
19	男性	市外	60歳代	1	京都駅の東にこのような土地あるのを初めて認識した。本来の京都らしい町づくりを願いたい。例えば古い京都の写しになるまち、歴史が良く伝わるまちなど、外国人にみてももらえるまちなど希望します。
20	女性	市外	60歳代	1	近代的な団地等も良いと思うのですが質問の方が言っていた様に京都の景観を損なわないような街づくりができたかと思えます。
21	女性	市外	50歳代	1	色々説明いただき有難うございました。 緑の多いこの京都で景観を失わないようにしていくのは大変むずかしいことだと思いますが、お世話になったコミュニティセンターのきれいなお部屋等本当に手をかけているなあ〜と感心致しました。桜の咲く頃に又、お伺いしたいものです。
22	女性	市外	60歳代	1	他府県人から見ると京都は歴史ある町であり、癒しの町であると思います。京都駅周辺の未開発地区は京都らしい特徴を残した特色ある地区にして欲しいです。 鴨川辺りの東山三十六峰の景観はぜひ高層の建物に隠れることなく残して欲しいと思います。
23	男性	市外	70歳代	1	京都らしさを残す為に高層住宅(高層ビル)は建てないで京町屋風の住宅建設のみの地域とすることで地域のグレードアップをはかること。 現先行取得している土地は75%と言うことなので地域全体の地図の上に南北東西に線をひき、その内の先行取得地で建物の建設出来る所から町屋風の家を建てて一般に売却し得た利益で次の計画をたて、最終的には京都で一番の住宅地になるようにすべきです。交通事情も良いので、京都市内で一番の高級住宅地になるのではないかと。
24	女性	市内	40歳代	1	崇仁地区には一定の社会資本の整備にあるものの、人を引きつける魅力ある機能や施設等が不足している。～人権を～しているのではないかと思います。この地区も他の地区と同じように～他の地区と同じようにいっしょに～ったり助けあって共に暮らしていくことが大切だと思います。もっとにぎわいのある～して歴史を受け継ぐことが大切だと思います。
25	男性	市内	40歳代	1	①について 第2ステージの京都全体のまちづくりへの貢献を視野に入れて検討したことについては、基本的に賛同するが、第1ステージの方向性を受け継ぐという点には賛同できない。 住宅地区改良事業による環境改善事業が成果を上げ、住宅団地ストックが確保されてきたこと、京都駅の東北部であり、東山地域への動線に位置すると言う特性を有していることを考えれば、今後の新たな土地利用については過去の経過や歴史性にとらわれることなく、フリーハンドな状態で議論できるようにすべきである。 ②について この地域は京都駅に近接するエリアであり、京都市全体のまちづくりの視点から今後の土地利用を考える際には、住居系の土地利用ではなく、商業、業務系の土地利用を中心に据えて具体的な検討を行うべきである。 「交流」や「人と地域をつなぐ」という言葉や素案にある「コミュニティの再活性化と多様な住宅の供給」は、既に住宅団地を形成しているエリアに限って適用するものであることを明確に示すべきと考える。 ③について 住宅地区改良事業により既に住宅団地が形成されているエリアについては、良好な住環境を維持していくべきであり、コミュニティの活性化のために新たな「居住者」を呼び込むような仕掛けが必要と考えるが、観光客などの日常的な「通行人」を呼び込む必要はない。 京都駅から東山地区への動線として新たな土地利用を図るべきエリアとは切り離した検討を行うべきと考える。 ④について 「魅力的機能や施設等の導入(新たな土地等の利活用)」の記述において、導入を期待する施設として例示的に掲げているもののうち、「沿道賑わい型施設」については、京都駅から東山地域への動線に位置する地域であることから、容易に理解できるが、「大学サテライト系機能」「創造的人材が集まる機能」「SOHO機能」については、なぜこの地域に立地させることを期待するのか理解し難い。特に「大学サテライト系機能」については意図的なものを感じる。 ⑤について 「環境に配慮した魅力ある景観形成」の記述については、おおむね賛同する。住宅地区改良事業の早期に完了し、土地区画整理事業に基づく新たな土地利用を着手可能となることから段階的に実施することにより、フェンスで囲い込まれた空き地を早急に解消することが望まれる。 また、鴨川沿いに衝立のように建っている高層の住宅についても、早期に解消していくことを明確に示してはどうか。 ⑥について 一般論としての行政主導型のまちづくりからエリアマネジメントへの転換については賛同するが、崇仁北部地域全体を視野に入れた将来ビジョンの中に「地域(地元)住民の方々をはじめ」という言葉が随所に用いられていることには違和感を覚える。 同和対策事業の実施という歴史的経過に由来する地域住民との関係は住宅地区改良事業の早期完了によりいったん清算し、区画整理事業により生み出した土地については、将来に向けた新たな土地利用を図ることをもって明確に示すのであれば、外部からの民間活力の導入は望めないのではないかと。

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
				7	②について このビジョンのリーフレットの表紙では、「将来のまちづくりを崇仁地区にとどまらず、京都全体のまちづくりに貢献する新たな視点から検討してきた」とされている。 しかし、「地域の今日の特性を生かす」の部分では、崇仁地区が京都駅に隣接する地域であることや京都駅から東山地域への動線に位置すること、京都駅周辺で新たな商業集積地域が形成されていることなどが掲げられているにとどまり、この地域に隣接する地域や京都駅を取り巻く他の地域について、現状としてどのような土地利用が図られているか、どのような土地利用計画があるか、そして、京都駅周辺、下京区、更には京都全体のまちづくりの中でどのような役割ないし機能が期待されるかについての記述が見られない。 実際に表紙にあるような視点から検討してきたのであれば、これらの点について具体的に記述すべきである。
26	男性	市内	40歳代	1	事業進捗が遅れることが、この地域のまちの発展を阻害することとなりますので、一刻も早く事業を完成させることが大事かと思えます。
				2	また、一定の年月が掛かることもやむを得ないとはいえ、目に見える形で何かが進んでいる姿を見せることも大事かと思えます。したがって、現在のフェンスで囲まれた土地を、暫定的とはいえ、何らかの有効活用(駐輪場、駐車場、フリーマーケット、その他。)をした方がいいと思えます。
				3	いずれにしても、いろいろと書いてあることが本当に実行可能なのか疑問のところもなくはないが、まずはできることから迅速に実行してほしいと思えます。
27	男性	市内	50歳代	1	崇仁地区においては、従来の住宅地区改良事業の実施で、一定の整備が図られているものの、用地買収の難航等から未だ事業が完了できない状況にある。 このため、「素案」に記載されている土地区画整理事業との合併施行により、事業の進捗を図ろうとする考え方には大いに期待を寄せざるを得ない。
				2	まちづくりの方向性については、当然、初期の目的である住宅事業に重点を置き、必要な整備をすべきであるが、地区の人口が大きく減少している状況や社会環境の変化を考慮し、ニーズに合った多様な住宅の供給も実施すべきと考える。
				3	また、交通至便という当地区の立地条件も考慮して、住宅建設だけでなく、魅力と賑わいを生み出す施設の導入、整備にも期待したい。
				4	この将来ビジョン検討委員会報告書に記載された内容からは、事業が従来にも増して進捗することが期待されるが、土地の本格利用までには、それでも一定の時間を要するものと思われる。「素案」に記載されたような暫定利用を行うことにより、従来のように、フェンスに囲まれた空地が放置され、事業が進んでいないといったマイナスの印象を払拭し、あわせて、まちの賑わいにも貢献するような工夫が必要である。
28	男性	市外	50歳代	1	将来ビジョンである以上、もう少し少くなる施設の配置計画や土地利用計画を示して市民意見を聞くべき。
				2	まちの活性化には、人、特に若者が集まってくる仕掛けが必要。具体的には、「市立芸大整備、改革基本計画」の方向性に合わせ、市立芸大美術学部を崇仁小学校跡地ゾーンに、音楽学部を東九条地域に誘致し、多文化共生のまちづくり、人権文化・若者文化・芸術の発信による活性化を図るべき。
29	男性	市外	50歳代	1	やっと同和一邊倒から脱却するのこの思いがある。 これまで散々行政が面倒見てきて、さあ民間ではならぬ。 民間導入までにはしっかりと行政で区画整理等の前段整理をしなければならない。
				2	いい言葉が伝わっているけど住民にもしっかり理解してほしい。
				3	人が集まるなら学生かなと思う。大学や学者の研究施設があれば学生も来るのではと思う。
				4	行政はゆるやかに規制するような面がかかわればと思う。
30	男性	市外	50歳代	1	大きな方向性が示されたことは、大いに評価すべきと考える。ただ、具体的な計画が見えてきていない。これは、昔からこの地域でいろんな計画がつけられているが、何も実現していないのと同じに思える。これまでの反省に立って具体的な計画を明らかにしていないとも思える。 やはり、改良事業を早く終わらせないとだめだと思う。 そのためにも、早く土地区画整理に着手して、第二ステージを現実のものにしてほしい。
31	男性	市内	50歳代	1	交通の利便性が高いため、集客施設の立地が望める場所だと思う。一方で、改良事業の実施も当然必要で、更には既存住宅の建替えも今後必要となると思われる。
				2	このため、一定のゾーニングが必要ではないだろうか。現在、塩小路高倉の東北のブロックは51棟が建っており、新たな住宅も建設されるため、ここは住宅ゾーンとして位置づけられないのではないだろうか。
				3	その南側の塩小路高倉の東南のブロックは、現在住宅が建っているが、立地的には京都駅から比較的近いということもあり、集客施設の立地にふさわしいのではないだろうか。(近年、エレベーターを設置した住棟があり、容易にはできないと思うが)
				4	塩小路河原町の東南のブロックは、交番、コミセン、保育所、柳原銀行があるため、公的施設を集約すればよいのではないだろうか。
				5	塩小路河原町の東北のブロックは、消防署の出張所ができるものの、後は未定ではないかと思うので、フリーハンドで、絵が描けるブロックになる。
				6	「賑わい」を考えるなら、どこのゾーンになるかは別にしても、集客施設の誘致が不可欠で、可能なら、土地も民間に売却して、民間主導で実施すべきである。改良事業で購入した土地を民間に売却できるのか、とか、簿価が時価をはるかに上回っている、など困難な状況にはあると思うが…。また、集客施設に伴う住環境への影響への配慮も必要である。まずはゾーニングを固めて、その後、例えば住宅はどうする、集客施設はどうする、公的施設はどうする、という議論を進めるべきではないだろうか。
32	男性	市外	50歳代	1	崇仁地区は、京都の玄関である京都駅前の地域にあり、京都駅を起点として、市内の観光地へのスタート地点でもある。これまで、地域的な特性を生かした街の振興が立ち遅れていたが、是非、鴨川や歴史的な地域資源と連携したまちづくりが進展することを期待します。
33	男性	市内	50歳代	1	①について 子供の頃、京都駅へ向かう市電の車中から見るこの地域は、人通りも多く活気があった。住宅地区改良事業により密集した不良住宅が撤去され、防災面では大きく前進したと思うが、一方で、人口の減少と高齢化が進み、結果的にフェンスと空き地が目立つまちになっている。 こうした空き地は、京都市が税金で買収したものであり、京都全体のまちづくりに貢献するような使い方をすべきである。
				2	②について 目指すべき将来ビジョンを検討するに当たり、この地域の立地や歴史、地域資源を生かすことは重要であり、周辺地域との連続性も考慮した「創造・交流・賑わい」のまちづくりを推進してもらいたい。
				3	③について 彦根城近くの「夢京橋キャッスルロード」は、低層の町家風建物で商店街を形成するなど、地区のコンセプトを明確にした再開発を行っているが、参考にしてもらいたい。
				4	④について エリアマネジメントを実現するには、長期間専念できる熱心な人材が必要。
34	男性	市内	40歳代	1	②項目の「歴史性を今に～学ぶ」が大変わかりにくいと思えます。 地域に根づく若い方々に将来あるべきビジョンを立てていただき、出来る限りまちづくりのベースになる様考えるべき。

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
				2	また、まちづくりを考える時、本当に住んでほしい人、まちに来てほしい人をターゲットに大きく転換することが大事。行政側も大変だと思いますが、民間では無理だと思うので、大きく構えて推進してください。
35	男性	市内	50歳代	1	河原町塩小路(北東角)のフェンスで囲まれた空き地が、いつのまにかポケットパークになっているが、そのことにより交差点の景観が見違えるように良くなった。
				2	空き地の暫定利用として、平成の京町家モデル展示場の提案は大賛成です。
				3	崇仁地区は、1周遅れのトップランナーになる可能性があります。この地区が、環境モデル都市の先進地区として、また、木の文化を大切にすまちとして、生まれ変わることを期待しています。
				4	高瀬川の水辺空間を豊かにするため、水流の復活をお願いします。
36	-	-	-	1	第一ステージの環境改善事業はいわゆる特別措置である。部落の実態的低位性の存在と部落差の解消の重大性、緊急性から、集中的に公金を投入することに社会的合理性はある。崇仁地域においては地域の実態的低位性が解消していない以上、住民に解消の責任転嫁することは許容されない。第一ステージの完遂は喫緊の行政課題であり、行政責任である。市行政と住民が主体となり、環境改善事業を積極的に展開すべきである。 その際、小規模集落の環境改善と異なり、崇仁地域の広大な面積と立地条件等地域特性、更には面積規模の広大性と居住人口規模との解離性を考慮すれば、低位性の解消のみの視点で事業推進すべきでないことは自明の理である。第二ステージという大きなキャンパスに、第一ステージの素描と到達点を明確に位置付け、将来ビジョンとの整合性に留意して事業展開を図るべきである。
				2	崇仁地域はその広大性や立地条件等の地域特性を考えた場合、無限の可能性を秘めているといっても過言ではない。第二ステージのまちづくりに当たっては、京都のまち全体の活性化や魅力創り、まちづくりの視点が必要であり、崇仁地域の可能性を最大限具現化するためにも、過去の経過やしがらみにこだわってはならない。更に附言すれば、現居住住民や市行政職員がまちづくりの主体になってはならないと考える。なぜならば、第一ステージの環境改善は地域課題であるが、第二ステージのまちづくりは地域課題を超え京都市全体の課題となっているからである。危機的な財政状況の中、市行政においては、広く市民の英知はもとより、資本活用も含めて大胆な民間活力の活用を図るべきである。
37	女性	市内	40歳代	1	住民が住む場所をなくしてしまうようなこれまでのような改良事業について、人権が尊重されたまちづくりを目指した取組みと成果であると言えるのか疑問です。崇仁地区に訪れたいと言う気持ちになる賑わいや魅力がなく、活気のない町になってしまっています。少子化や高齢化が急速に進んでいる今の時代に、地域社会を再生することは相当に難しいと思いますが、このビジョンの実現に向けて住民と行政が知恵を出し合い、じっくりと将来像を検討して京都の中心にふさわしい機能が盛り込まれたまちづくりが実現することを期待しています。
38	男性	市内	40歳代	1	①について 京都の玄関口である京都駅に隣接していることを踏まえ、その潜在力を活かした京都を牽引する地区としてのまちづくりを目指して欲しい。
				2	②について 特に、【人をつなぐ】に提案されている、様々な専門的分野の人材等、外部からの参加によるエアーマネジメントを実現するモデル地区としてのまちづくりを期待する。
				3	③について 魅力的機能として、若者の文化・芸術の発表などができる地区となるとよいと思う。
				4	④について 各地のまちづくりにおいて、地元住民や専門的分野の人材等が参加したまちの運営(エアーマネジメント)が目ざされているところであり、この地区においてもそうした取り組みが実際に行われることを期待する。
39	男性	市内	50歳代	1	崇仁地区将来ビジョン報告書拝見しました。 時間軸、空間軸共にスケールの大きな視点からの提案・報告に感心しました。これまでは、同和施策としてのまちづくりという視点に縛られ過ぎていたように感じさせられました。崇仁地区だけのまちづくりではなく、広く京都市全体のまちづくりを見据えた提案に目からうろこが落ちる思いでした。 しかも、これまでの同和施策で築いてきたストックを活用し、さらに発展させていくという視点も盛り込まれています。 今後は、このビジョンに基づき、スピード感を持って事業実施に取り組んでいただき、10年後には、多くの市民や観光客でにぎわっている崇仁地区となることを期待しています。
40	男性	市内	40歳代	1	改良住宅の建設は必要だと思います。
				2	箱物の建設は、費用もかかる維持管理にも経費がかかるので、初期投資だけで済む公共施設の整備を検討してほしい。
41	男性	市外	50歳代	1	①地区内の住環境整備が一定前進していることはわかりませんが、東京から新幹線で京都に帰ってくるときに、列車の中から京都駅周辺を望むと空き地が目立つことはいうまでもありませんが、古びた特徴のない市営住宅が立ち並んでいるのが妙に目立ち、観光都市京都の玄関口に接している地域と見えないような風景で残念でなりません。このような施設の景観の検証を含めてこれからのまちづくりを検討する必要があるのではないですか。  ②「創造・交流・賑わいのまち」～人と地域をつなぐまちづくり～をキーワードに進めることについて、非常にひびきのよい言葉ではありますが、あまりにも八方美人的で本当に実現可能でしょうか。各ゾーンの地区計画はできているのでしょうか。  ③崇仁地区からみて、妥当な方向性であると思いますが、一方京都市全体からみた崇仁地区の在り方、将来ビジョンはどうなっているのでしょうか。  ④非常に理想的な形態であると思います。ただ、運営基盤の習熟度によって行政の関与の方法や主体性が変わってくるのではないのでしょうか。
42	男性	市外	50歳代		①②③のいずれにおいても考え方には、概ね賛成です。 「国際文化都市京都」の魅力のさらなる向上となり、国内外から多くの人々が訪れ、特に、外国からの観光客が来て、しかも単なる表面的な観光ではなく、日本の文化・歴史を理解してもらえるような、日本の良き理解者となってもらえるような、そして訪問者と市民との交流ができるようなまちづくりをめざしていただきたいと思います。交流から新たな文化が創造されると思います。 京都駅に近く、鴨川という水環境にも近いという絶好のロケーションを最大限活かせるようなまちづくりを考えていただければと思います。水は人々に自然を感じさせ、安らぎと癒しを与えてくれます。それゆえ、鴨川はウォーターフロントをテーマに親水空間としてアメニティ豊かで、「憩い、癒し、やすらぎ」を感じられるような環境に整備していただければと思います。  具体的でなくて申し訳ありませんが、人々が、集い、交流し、楽しく、安らぎ、憩えるような空間が求められていると思います。 1例として、アメリカの地名は忘れましたが、市内を流れる川沿いを再開発し、市民が川の流れ、水を感じながらショッピングや憩えるようにした著名な事例を見た記憶があります。
43	男性	市内	40歳代	1	③について、まちづくりを進めるためには、方向性を示すとともに、それを実現するための一定の規制等を地区計画等でかけた上で、それ以降は、できるだけ民間が自由に活動できるようにすべき。土地売買が行われ、住みたい人、事業をしたい人がこの地域にこられるようにすることが、地域の活性化には必要だと思うので、必要なくなった事業用地は、積極的に民間へ処分していくべきだと思います。
44	男性	市内	40歳代	1	地域の特性、これまでの歴史を踏まえてまちづくりを進めるに当たっては、住民が参画し行政とともに知恵を出し合っていくべきだと思います。
45	男性	市内	40歳代	1	地元も参加したまちづくりはとてもよい。

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
46	女性	市内	-	1	①②③このビジョンに賛成です。京都の市街地の中央に位置する崇仁地区は、新幹線で京都駅に着くとき京都タワーとともに出迎えてくれる「京都の顔」です。京都駅前と言う交通至便な立地で、ある程度のまとまりのある面積があるという、この上ない魅力のある地域であるため、この地域の賑わいだけでなく、今後永く京都の活力、人々の求心力を生み出すようなまちづくりとなるように望みます。市内・市外だけでなくグローバルな時代にふさわしく、人々の流れがここを起点に起きるような仕掛けとして、大学サテライト系機能や創造的人材が集う場が自由度を持って運営されるようなまちづくりを期待します。
				2	④エリアマネジメントは難しそうですが、大事な視点だと思います。
47	男性	市内	40歳代	1	本将来ビジョンに掲載されているとおり、崇仁地区は京都の玄関口ともいえる京都駅に隣接し、人の誘導や賑わい創出を通じて発展の可能性が京都市の中でもっとも大きい場所であるにもかかわらず、現状としてはまとまりと魅力に乏しいまち、直接的に言えば、人が行きにくい場所となっている。 京都市はもとより京都全体にとっても大きな可能性を秘めたこの地域を活かしていないことは本当にもったいないと考える。 行政としても本気でこの崇仁地区を「創造・交流・賑わいのまち」～人と地域をつなぐ まちづくり～をめざすなら、行政の取組の一つとして、この地域に市役所を移転することを検討してはどうかと思う。 市会等でも市役所の建て替えについては様々な議論がされているが、この崇仁地区に市役所そのものを移転することは、貸しビル等に分散化された市役所部署を集約することができることも、交通アクセス向上により、他都市からの訪問者も増加することが期待でき、その結果、人の誘導や賑わい創出にも貢献できるのではないかと考える。
48	男性	市内	30歳代	1	最近の市内都心部の状況を見ていると、京都駅周辺の存在感が高まってきているように思われる(商業的・不動産的価値)。
				2	上記も含め集積化(もちろん景観等考慮した範囲内で)高密度化を図っているエリアを計画的に作ることは重要である。
				3	空地や古くなった改良住宅をうまく利用し、商業化、集積化する部分と、低密度でヒューマンスケールの居住エリアにうまくゾーニングして、それらの行き来をスムーズにできるようにすれば、高齢者の交通上の利便性もはかれ、アクセス向上による若年層の住まい手が増加しそうだ。
				4	上記は机上の空論であり、今までも現在も大変な苦労があったと思います。しかし、都心にある宝の山をかきこく使えばと忌憚らない議論がされることを願います。
49	男性	市内	50歳代	1	塩小路通の河原町通から丸鳥通りの間の賑わいをどのように演出するか、「魅力と賑わいのあるまち」の中でふれられているが、具体的な検討を十分に行っていく必要があるのではないかと。
				2	また、まちづくりを進めていくためには、住民のパワーと意識をどのようにして作り上げていくかが重要であると思う。その仕掛けをビジョンの中でしっかりと位置づけて欲しい。
50	男性	市内	40歳代	1	崇仁地区は京都駅に隣接しながら、フェンスや空き地が目立つなど、その機能を有効的に発揮することが出来ていない。河原町通りのJR交差部の改良も行われ、八条通りも拡幅されるなど、地域内の整備も進められているが、今後、観光都市京都の玄関口として、駅前の賑わいがこの地域まで継続されるよう、さらに魅力的あるまちづくりに取り組んでいただきたい。
51	男性	市内	50歳代	1	崇仁地区において、「まち」の主体となる「人」の減少により「まち」の構成が脆弱になっていくことが危惧されていますが、報告書(素案)に「高齢化が加速度的に進行」と記述があることから、単に人口が減少していると言うのではなく、若年層の減少が顕著であると読み取れます。 若年層の減少により18歳未満の児童が居住する世帯も減少していると推測され、「まち」のにぎわいや未来の崇仁地区の発展を担う世代が少なくなっていくことは、「地域コミュニティの崩壊」のみならず「まちの衰退」につながっていきます。
				2	崇仁地区は、京都の表座敷の位置に位置しており、交通インフラの幹線が地区を縦断し、多くの来客者が付近を通過しています。地区の周辺には東本願寺、渉成園、三十三間堂、国立博物館、知徳院等の観光地・文化財もあり、それらへのアクセスの通過点となっていますが、通過点ではなく、地の利を活かして人々が集う場所となることが望ましいと考えます。
				3	まちづくりの基本は「住」にあると考えますが、若年層が回帰する魅力あるまちづくりを行う上では、まちの活力の「核」となるものが必要であり、その拠点に人が集うようになれば、連鎖的に人が集まり、住まう人々も増えてくるのではないのでしょうか。 崇仁地域においてそのような「核」となるものとしては、京都の文化観光ゾーンに隣接することから、大学や研究機関の誘致が考えられます。住宅地区改良法で取得した土地として利用に制約があるかもしれませんが、アクセスが良い地に大学や研究機関を誘致し、居住ゾーンとのバランスを考慮したうえで民間資金を活用した産学協同による学究ゾーンとして整備ができるならば、「まち」のにぎわいととも、「人」の力が回復し、「まち」の発展が期待できるものと考えます。
52	男性	-	40歳代	1	現在の崇仁地区の空家やフェンスに囲まれた空き地は異様に感じます。 地域の立地を活かして、大胆な発想で、人がつながり世代のバランスがとれた街であり、新たに地域を特徴付ける施設を設けるべきだと思います。
53	男性	市内	30歳代	1	概ね骨子版の内容に賛成です。 京都駅からも程近く、東山観光への動線上にもあることから、もっと発展してもいい地区であるのは間違いのないと思います。しかしながら、フェンスに囲まれた空き地や空家が多く見受けられるような状況では、外部から訪れた者の目には、これほど便利な場所にありながら何故かといったような感じで、少しばかり奇異に写ることでしょう。ですから、この素案の内容にあったように、土地画整理事業などで点在している土地を集約するなどして、こういった状況を改善することが、地域活力や賑わいを取り戻すことへの第一歩となるのではないのでしょうか。
				2	また、崇仁小学校の跡地については、大学のサテライトなども良いと思いますが、せっかく歴史のある学校ですので、校舎をそのまま利用するようなことはできないのでしょうか。例えば、神戸のほうだったと思いますが、小学校の校舎の各教室にカフェや雑貨店などを入れて利用していたところがあったと思います。その経営者達は皆、若い人ばかりで、客層はさまざまだったように記憶しています。こういった使い方も賑わいを創出するには面白いのではないかと考えますがいかがでしょうか。
				3	また、地元住民の方たちが本当の意味で京都市などの行政から自立し、自らの手でまちを形作っていきえるよう望みます。
54	男性	市内	50歳代	1	改良事業と土地画整理事業との合併施行への転換については、大いに期待しています。改良事業長期化の要因として「用地買収方式の事業に協力が得られない」ことを掲げられていますが、もともと「不良住宅が密集している」という改良地区指定基準を満たしていたのが、すなわちオールクリアランス方式の住宅地区改良事業が適切であったのかどうか疑問です。崇仁協議会が起こした訴訟も当初はこのことが争点でした。事業用地の集約化、地区内での土地取得の権利の保障を図る事業の促進を期待します。
				2	「将来ビジョンの視点」のうち「歴史性を今に受け継ぐ」という点が具体的にどのように活かされるのか見えてきません。こうした視点を無理に含む必要があるのでしょうか。地域を取り巻く状況からすれば、福祉・医療に特化したまちづくりが最も求められているのではないかと考えます。
				3	p.6に記載されている「京都市の新景観政策の基本」が内容不明です。高層建築物を排除するのでしょうか。詳細版には、問題としておられる点を具体的に示してください。

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
55	男性	市外	40歳代	1	京阪七条、京都駅との距離も含め、一地域の賑わいだけではなく、京都の玄関口としての賑わい・交流ということを考えていくべきだと思います。 その点から、魅力的機能や施設の導入については、環境に配慮しながらも多様な観点からの発想が必要だと思います。これまでから、崇仁地域は地元がまちづくりをしっかりと検討されてきた経過もあり地元意図も十分に考慮した形で将来ビジョンを築いてほしいと考えます。
56	男性	市内	40歳代	1	パブリックコメント募集になじまないテーマ設定であると思いますし、何でもかんでもパブリックコメントを募集しなければならないのでしょうか。 そんな中において、歴史的経過を踏まえつつ、今日的特性を生かし、さらに将来を見据えたビジョンは崇高であると思います。最終的には将来のまちづくりを崇仁地区にとどまらず、京都全体のまちづくりに貢献する新たな視点から検討してきたとありますが、その結果、人と地域をつなぐまちづくりをキーワードに据えてこれから具体的な作業を進めていけることになるであろうと思いますが、実態と現実とが掛け離れたことのないようにすることが寛容ではないかと思えます。
				2	いずれにしても、報告書にも謳われているように、行政指導型のまちづくりから、地元住民の方々や専門的分野の人材等と行政等が連携する手法が大事であるかと思えます。が、連携という言葉ほど、現実的ではない言葉はありません。どこかがリーダーシップを発揮しなければなりません。どんなときでも、地元住民の方々が中心的役割を発揮されることを望みます。
57	女性	市内	-	1	梅小路公園に水族館ができることなのですが、海の近くに作るのならまだしも、全然関係のないところにつくるというのはエコとは反対の方へいっているとおもいます。水族館は海の近くの現在存在しているところへいけばいいとおもいます。梅小路公園は公園としての施設を充実していけばよいとおもいます。(例えば自然林として充実させるとか。子供たちに自然をもっと身近に感じさせるため) わざわざもってくるのが何故水族館なのか全くわからない。私は個人的に反対です。文化的な施設を充実すべきです。
58	男性	市内	40歳代	1	①これまでのこのエリアへの投資を考慮したとき、京都駅に近接した当該地区の立地状況を見ると、当然京都全体のまちづくりへの貢献を視野に入れて検討したことは意義があるものと思う。しかしながら、何を持って、目に見える形で京都全体のまちづくりにどんな形で貢献したと言えるのかピンとこないというか、イメージが湧いてこない。「なるほど!」といえるようなものを示してもらいたい。
				2	②これからのまちづくりを、「創造・交流・賑わいのまち」～人と地域をつなぐまちづくり～をキーワードに進めることについては、キャッチフレーズ的にはきれいな文言が並べられているが、具体的な成果を期待する。
				3	人口が減少し、高齢化が進んでいるこの地域で、若い世帯も含めいろいろな世代間の交流を目指してもらいたい。ある意味過去の経緯も度外視し、この地区と全く関係のない方が住むようなことでも良いと思う。
				4	③魅力的機能、施設等の導入、新たな土地等の利活用、環境に配慮した魅力ある景観形成、多様な住宅の供給等々これまたきれいな言葉は並べられているが、「京都市として、この地区は〇〇や△△や□□の状況にあるから、☆☆のようなまちづくりを目指します。」といった具体的な京都市のビジョンを示すべきだと思う。
				5	今回、改良事業と土地区画整理事業との合併施行を検討されているが、その効果を期待している。これまでの経過から重点地区を設けて行うことは、今後の速やかな事業進捗を考えても良いことだと思うが、これまで用地買収等に応じてこなかった方々がすんなり区画整理事業に応じるかどうかは疑問が残る。
				6	その結果、生み出された一定の固まった空きエリアは、民間活力の中で例えば民間提案型で施設機能等を含めたまちづくり案等を募ってみたいと思う。京都市のコンセプトを示した中で提案させコンペをするといった考えはいかがだろうか。
				7	地元住民が主体となってまちづくりに取り組むことは、住民自治の観点からも良いことだと思う。そこに京都市が考えているまちづくりとの整合を図ることは必要なことであり、地元まちづくりを支援する立場から、行政や学識経験者等の専門的分野の方々が参画して検討することは有意義なことであると思う。しかし、それは、決して地元よりもの考え方を支援するものではなく、それこそ京都市全体のまちづくりを見据えた、中立的な公平な目線で取り組まれるべきであり、かつ、その状況が一般市民等第三者からいつでも拝見できる仕組みが必要であると思う。
59	男性	市内	30歳代	1	京都の玄関口京都駅から1km以内にあり、非常に便利な場所であるにもかかわらずフェンスに囲まれたような空地が多いのは残念です。
				2	鴨川や高瀬川といった自然環境も活かしつつ、祖父母を含めて親子3世代で楽しめるような空間になればと思います。
				3	例えば、屋外では水辺で遊んだり、バーベキューを楽しめるような公園を作りつつ、屋内では子供が遊べる施設や体育館、グランドゴルフやゲートボールのできる屋外の複合施設を併設する。
				4	市内外から多くの人を呼べる土地環境をフルに活かしたまちづくりが地域の再活性につながると思います。
60	男性	市内	40歳代	1	住民さんの意識改革等、これまでの慣例や“常識”を変えていく必要があり、いろいろと大変かと思いますが、頑張っていたきたいと思います。
61	男性	市外	50歳代	1	今回の将来ビジョンの素案は大いに期待できるものであると思う。かつて、旧同和地区崇仁として、地域改善対策事業の大きな残事業を抱えて全国的にも注目されていたこの地域の整備について、今回このような将来展望を持って計画を推進できれば町づくりのみならず、人権問題の観点から大いに意義あるものになると思う。
				2	特に、地域の特性として京都駅の施設やリサーチパークとの近隣性に着目し、具体的ビジョンとして魅力と賑わいの創出があげられていることは注目に値する。「大学サテライト系機能や創造的人材が集まる機能、SOHO機能」は是非とも実現したいビジョンである。併せて沿道賑わい型施設を導入出来れば、京都全体の都市機能においても重要な役割を果たせると思う。一方、「環境に配慮した景観」の視点も、決して地域の発展との調和を忘れることなく、この地域の魅力と賑わいを阻害する要因とならないよう十分に留意することを切に希望する。
62	男性	市内	40歳代	1	土地区画整理事業との合併施行を効果的にすすめ、目に見えるような形で事業をすすめて下さい。
				2	地元主導(アイデア)を基本にしつつ、行政の支援も得ながらモデル的なまちづくりがすすめられることを望みます。
63	男性	市内	50歳代	1	①京都駅の東というロケーションを踏まえた個性のあるまちづくりを期待する。
				2	②高齢化の進むなか、高齢者間のコミュニケーションの期待できるまちづくりを目指してほしい。
64	男性	市外	50歳代	1	①住宅地区改良事業が半世紀余りの時の経過の中で、新たな時代に見合ったまちづくりを目指すことは重要。
				2	②新たな賑わいの集積地となっている京都駅エリアに属し、かつ東山エリアや、鴨川を背にした立地と、中近世の歴史的資産を有する崇仁地区のまちづくりにふさわしいキーワードと思う。
				3	住宅に限らない、魅力的な施設の導入は、まちの賑わいにぜひ必要。高層建築物は住宅も含め、京都三山への眺望、景観をこわす結果となっている。
				4	④住民参加のまちづくりのあり方として多いに進めてほしい。
65	男性	市外	50歳代	1	①受け入れようとする住民(年齢、単身者か家族か、学生か社会人かなど)も考慮されているか?(入って来る人によって町は形をかえる。)まち独自の地区計画を具体的に定めておく必要がある(想定外の風俗店や施設が入って来ないように)
				2	②小学校の統合が終わって転校の心配もないことから、子供をもつ生産世代には魅力である。ただ、地域コミュニティの再生ということ考えると、一般住民の受け入れが大切で住みやすい環境をつくることを議論していく必要がある。

受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
				3	③崇仁をひとつの都市と考えてしっかりとした地区割が必要と思う。空地の穴埋めではなく、計画を練って線を引くことが必要？(混在するのではなく)
				4	④多様な考えを持つ人が参加するという点ではよいと思う。また、地元住民の意見を多く聞く必要があると思う。改良住宅を一般に開放するには、間取りの改善が必要では？住宅デザイン会社の参加を呼びかけてみてはどうか。分譲住宅化するにあたっては、購入条件や家賃形態が一般目線で。
66	男性	市内	30歳代	1	崇仁地区が賑わうことは、京都駅周辺全体の賑わいに関わってくると思われる。崇仁としての特徴を出しつつ、それが駅周辺の持つ特徴とコラボレート、駅周辺全体としてボトムアップできればと思う。
67	女性	市内	70歳代	1	他府県で駅前を散策する時、小さな街でも「スゴイ」と感じるがよくあります。京都市の玄関口に位置する地域でありながら、あの様に多くの空地があることは常々残念に思っておりました。今駅前は南方、西方が発展していく中で、是非この機会に誰かがしてくれるでなく、囲い込まず多種多様な方々の意見を取り入れ、実行性のある将来ビジョンをつくっていただきたく思います。
68	-	-	-	1	この地区の活性化のために、鴨川に橋を架けることを提案するものである。八条通(下京区)京都駅と泉涌寺通(東山区)東福寺駅を結び、新たな人の流れを生み出し、この地区に人を引き込み、魅力を増し、崇仁地区の価値を上げることを目的とする。現況の当該地区を取り囲む道路は、東:須原通 西:高倉通 南:八条通 北:七条通であり、また、東西を貫く道は、北から七条、塩小路である。このうち、須原通以外は、多くの人(車以外)が通過等に利用する。つまり、須原通りは生活道路である。また、昼間人口の減少で生活道路としても機能せず、ただの車の抜け道としての利用が多いようである。
69	-	-	-	1	民間の力を大きく取り入れ、大胆な都市づくりとするのが好ましい。委員とは全く別の視点ですべて民間に投げ出すくらいではどうか。過去のしがらみもあるだろうがすべてを民間に託した場合どんなプランができるのかどんな都市づくりができるのかも見てみたい。
70	男性	市内	30歳代	1	6月になると五条から七条の間の高瀬川でホテルを見ることが出来る。このすぐ南側にあたる崇仁地区の高瀬川には現在ホテルはあまり見られないが環境を変えればホテルを繁殖させることが可能だと思う。ホテルが舞う街として街づくりをすれば、地域の人々の地域に対する関心が高まり、コミュニティを再生できるのではないだろうか。また、市民の憩いの場としても注目が高まるのではないだろうか。
71	男性	市外	30歳代	1	③の魅力ある景観形成に関して、もっとも景観を美しくできる所を増やし、憩いの空間を広げてほしいです。
				2	②にも関わりますが、「いやされるまちづくり」を進めてほしいです。
72	女性	市外	50歳代		・京都駅を中心に北方と南方がもっとスムーズに行き来できる様に地下街が充実すると良いと思います。 ・歩道や自転車優先道路の拡充を望みます。 観光客や修学旅行生の多い京都駅周辺のこの地域こそ、歩いても自転車で乗っても十分に楽しめる様にしたいかがでしょうか。
73	女性	市内	20歳代		現在ある空き地を活用し、遊具や緑のたくさんある公園があればと思います。子どもたちが集まり、笑い声がたくさん聞こえる場所を作ってほしいと思います。
74	-	-	-		ボンデザール・橋
75	女性	市外	50歳代		居住空間、商業空間、緑地空間と3空間に分けて、子供が育ち学びに適した空間作り 特に居住空間には子供とおとしよりが共に寄り添えることができる空間があればいいとおもいます。
76	女性	-	-		子どもたちがより充実した教育を受けられるよう、その教育活動に関わる教職員が行政と連携する場で、互いに広く理解の浸透が行われるようにしてほしいです。
77	女性	市内	20歳代		市営住宅の設備改良(風呂の設置)をお願いしたいです。 学習センターの有効活用、地域への開放などを行うことで更に地域に根ざした施設になることと思います。 読み書き教室のバックアップの支援。
78	男性	市外	50歳代		企業、商店、文化施設など経済効果も考えながら子どもたちの空間が保障できる総合的な文化ゾーンとしても発展してほしい。
79	-	-	-	1	①お風呂のない住宅を、お風呂付き住宅にしてほしい。 老朽化住宅を早急に安全な住環境として整えてほしい。新しい住宅を建てて、順次入居できるようにしてほしい。 エレベーター完備の住宅にし、高齢の方が快適に暮らせるようにしてほしい。
				2	教養を高める、趣味の教室などをひらいてほしい。
80	女性	市内	30歳代	1	・様々な年代の人が集まることのできる場を作っていくことが、町の活性化につながるのではないかと思います。子どもたちが集まり、遊ぶことのできる広い公園(住宅内にあるのではなく)の設置を望みます。
				2	・子どもたちの生活が安定していくためには、住宅改良の視点も必要かと思えます。市営風呂に行くために夜間の外出が続いたり、共働きで家庭の支援のない子の場合は非行につながりかねない現状もあります。
81	男性	市内	40歳代		京都市立涉成小学校が開校し、子どもたちのにぎやかな声がさらに聞かれるようになっていきます。新設校ということで他地域からの転入も益々増えることでしょう。そうなれば、子ども達が安心して遊べる、安全で美しい公園が必要となります。小さな赤ちゃん、小学生たちがゆつくり過ごせるスペースの設置を望みます。 また、子ども達が、ノートや鉛筆など文房具をじっくりえらんで買いそろえるスーパーなどの場も少ないと思います。作っていく必要があるでしょう。 経済的な発展も可能なエリアになればと思います。 「崇仁地区」という名称が覚えやすかつしみやすい名称になればなお良いのではと考えます。
82	男性	市外	20歳代		子どもたちが安心してすこやかに育つことのできるまちづくりをお願いしたいです。子どもたちがのびのび遊べる、歴史や地域のことははじめとする学びの場などがあれば、子どもたちは元気に活動できると思います。また、高瀬川や鴨川をはじめとする地域の自然を大切に、子どもたちがそれらに触れることも重要だと思います。 子どもたちのためにもよりよいまちづくりになることをのっています。
83	女性	市内	20歳代		子どもたちが安心して生活できる町づくり。 核家族化が進み、子どもは親や兄弟としか家の中でふれ合う機会がない。少子化が進み、より、地域のやくわり、人々のふれあいを大切にしたいので色々な世代の人々と交流できる場を設定してほしい。 また、子どもたちが、元氣いっぱい楽しくあそべるスペース、子供づれ(小さいお子さんがおられる家庭)では、砂場や公園がきれいな公園が必要です。 また、特に雨の日に、子どもたちがあそべる場があったらいいなと思います。
84	女性	市内	40歳代		・崇仁のまちを美しく、今後も住み続けたいと思うまちに今以上にしていきたい。 ・「まちづくりは人づくり」を今後も大切にし、今まで以上に人のつながりを大切にしたい。 ・ピオトープを今後も大切に、ピオトープに人が集まるまちにしていきたい。
85	男性	市内	20歳代		子どもたちが安心して遊べる空間をつくってほしいです。
86	女性	市内	20歳代		長い年月をかけて住環境整備が前進している一方で、未だ事業が完了できていなかったり、空き地が目立っているのが現状で、住環境に差があることを感じています。多様な住宅の供給を目指していくという方向性はよくわかりました。 また、京都駅に隣接していることから全国や世界からの観光客へ京都の町をアピールする必要性もあると思います。 美しく、明るく便利な町であり、だれに対してもやさしい町づくりを推進していくことを願っています。活気にあふれた町となるよう「つなぐ」をキーワードに具体的な方向性が進められていくことを期待しています。



受付番号	性別	居住地	年齢	意見番号	意見内容
87	男性	市内	50歳代		京都駅に近いという「地の利」をいかにいかすか。 また、歴史を大切にしながら、新しいものを取り入れていける、人にやさしい環境にやさしい町づくりをすすめていってほしいと思います。
88	女性	市外	-		崇仁地区に人々が訪れたいくなる施設の建設(例えば植物園や図書館、スポーツジムなど公共の施設)
89	女性	市内	-		社会人、学生の方が運動ができて利用できる施設(フットサル、バスケット、バレーなど体育館的な建物)
90	男性	市外	40歳代		区画整理事業との合併施行は、長期化する改良事業の終息に向けた打開策として、大きな期待を寄せている。 地元とのパートナーシップのもとで、より短期で進捗よくするよう頑張っていたきたい。 将来的には、今回の委員会の委員さんをはじめ、外部の視点を大胆にとり入れることが、人を引き寄せるまちづくりにつながるのではないだろうか。
91	男性	市内	50歳代	1	①第2ステージで「京都のまちづくりへの貢献」を視野に入れて検討したことは、地域の位置や広さからして当然のことだし、むしろ必要なことだと思います。
				2	②キーワードに基づいて「まちづくりを進めることはいいのですが、どのような「まち」になるか、あるいはどのような「まち」にしようとしているのか具体的な土地利用のイメージよくわかりません。言葉として美辞麗句が並べてあるだけで、果たして「将来ビジョン」とまで言えるものなのかと疑問に思いますが、地域の歴史や住んでいる方々の思い、京都市が税金を投入して全てをやるわけではないでしょうから、これからは期待したいと思います。これからぜひ、ホームページなどを使って検討内容をオープンにし、市民の意見を参考にするようにしてください。
				3	③「時間をつなぐ」、「人をつなぐ」は、地域の人が中心となって周囲を巻き込みながら活動していくことによって成し得る(生まれてくる)ものだと思うので、ぜひ、市役所はそのきっかけづくりに力を発揮してほしいと思います。「地域をつなぐ」は、もっと広いエリアでの取り組み、関係する団体などとの連携がないと結果しないものだと思うので、難しい「視点」ですが、何かできたら下京区・東山区の新たな住民力・地域力として発信できることになり可能性を感じます。
				4	④行政主導型から地元住民等との連携によるまちづくりは、当然のことだし、そうでないと地域のまちづくり活動も長く続かないものだと思います。ただ、市役所が計画地の多くを所有しているのであれば、「京都全体のまちづくりへの貢献」という意味からも今後の具体的な土地利用については、まず市役所が責任を持って具体的な計画を示すべきだと思います。立てた計画によって「地域がどのように変わるのか」、「京都全体にとってどのような貢献があるのか」などをしっかりと説明し、市民や地域住民の理解を得るようにしてほしいと思います。もちろん、計画策定の過程では、建築や経済の専門家などと十分過ぎるくらいに協議・検討することを忘れないでほしいと思います。
92	女性	市外	50歳代	1	①適切と思う。第2ステージの展開を楽しみにしている。
				2	②京都のまちづくり全体に通じるキーワードであり、京都発展の先導的役割が期待できる。
				3	③多様な住宅を供給し、新たな住民が増える際、地域コミュニティの形成を視野に入れた仕掛けが必要である。都心部のマンション等で最近試みられている「住民の地域活動への参加を促す工夫」を予め織り込みながら建設を進めることが大切である。(例)先に「まちのルールきまり」などを定め、土地・住宅の取得や入居の前によく了解を得ておくなど。
				4	④施設の導入や住宅建設などが一定進んだ後は、地元住民が主体となり、専門家による助言、他の地域と同じ程度の行政サービスを受けながらまちづくりを進めるべきだと思う。
93	-	-	-	1	この地域の歴史的背景と、置かれていた状況を鑑みますと、現行の法規制、また条例にとらわれ、また京都市の行政組織の中の一部局での取り組み、予算ではなく、京都市全体の、もっと広げれば国の施策としての取り組みまで広がっていかないとはいけません。 教科書でも記載されていますように、この地域のおかれた負の歴史は、いわば当時の国家としての、ゆがんだ施策であるならば、長い歴史を経て、今度は国家の責任として、この地域の再生に取組まねばいけない重要課題であると思われま
				2	また京都市におかれましては、部局間でのみの施策では、たとえば住宅、商業、教育など、一地域の問題として対処していく場合、その分野のみに特化した政策にかたより、広範な議論、発展性の妨げとなっていくように思われます。
				3	この地域の今を考えますと、ある一定の制約、または用途を限定されたなかでの再生計画ではなく、むしろ制約や用途は、制約を取り払っての議論を深めていくことが肝要ではないかと思ひます。
				4	この策定は、あらかじめ一定の方向を決めて、その制約のなかでの位置づけでは、地域、都市としての発展性にも限界があつて、些少な結果を生みかねません。
				5	まずその一例として、この地域を「京都住民特区」として特区申請を行って自由に活用できる道を切り開いて、住民特区として活用してはどうかと思ひます。たとえば、若年層の育児、子育て世代を、10年、5年という期間を設けて、優先的に入居できる住宅と市内中心部に多く居住されている独居老人の方が、入居できる住宅。
				6	一つの町の中で、各世代が生活できる住環境づくり。また、単純な集合住宅ではなく、自治活動、生活環境の保全、維持に積極的に参加、協力していくことを、入居の誓約として明文化して、新しい町を創造していく。と同時に、合理的で、整合性のある街を作るために、土地を収用して、その取得にあたっていかねば、結局とところどころに、休眠地を残してしまい、そのことで効率的な土地利用が妨げられます。 本市の条例、法令のもとではそこまでの強制力は及ばないかと思ひますので、是非、特区として、行政の裁量が広がればと思ひます。
				7	住宅整備のみならず、文化、あるいは商業施設も現行法制化では、いろいろの制約を受けるでしょうから、新しい町、今後の京都の有り様を具現化していけるような町づくりになればと、切望しております。
				8	国家の施策を永年放置してきたつければ、国家にもその責任の一端があるかと思われま
				9	小手先の補修、改修、また整備はこの地域の再生への道は、方向性が見えにくくなります。 「なんでもできる」 その自由な発想を生み出していくためにも、私はそう考えています。
94	男性	市内	40歳代	1	一般的に考えられることとして、綺麗に、よくまとめられていると思ひます。少子高齢化等による地域コミュニティの形成については、崇仁地区に限らず、市内のいたる所で問題となっており、これからの社会における大きな課題であると思ひますし、将来ビジョンの具体化については、「新たな土地等の利活用」において、これまで京都市が行ってきた「ひとまち交流館」や桂イノバなどをイメージするものがあげられています。これらも一般的に考えられることだと思ひます。暫定的な土地利用についても、…。これまでのものを集めてくるのもいいと思ひますが、発想を転換し、もっと奇抜なものを提案していただきたいと思ひます。 現在、京都市は、財政的に危機的状況のなか、有効で、効果的に税金が活用されることを望みます。
				2	②のキーワードについては、特に意見はありませんが、③の「崇仁北部地域全体を視野に入れた将来ビジョン」においては、刻々と変化していく京都の玄関口として、京都駅を取り巻く周辺地域との連携し、賑わいと活気あふれる国際都市・京都の創生のためグローバルな視点にたつて取組んでいただきたいと思ひます。 最後に、この報告書がまとめられ、21世紀に向け進んでいき、着実に実行されるのを見守っております。

性別		居住地		年 齢								
				20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
男	55	市内	47									
女	28	市外	35	0	6	8	22	28	10	5	0	
回答なし	11	回答なし	12									

全数 94